

【徳島県吉野川市】

校務 DX 計画

吉野川市ではこれまでに、学校・教育委員会が互いに協力し、ファイルサーバの活用や校務支援システムの導入による学校及び教師間での伝達事項や会議資料のオンラインでの共有や紙媒体の使用の減少、ウェブ会議ツールを用いた研修の増加、保護者連絡アプリの全校への導入や学校と家庭との連絡のデジタル化など、校務のデジタル化に向け推進を行ってきた。

しかし、学校現場においては依然として紙媒体の資料の活用や校務のデジタル化が滞っている項目があることも事実である。令和 5 年度に国が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」(以下チェックリストという。)に基づく自己点検の結果を踏まえ、業務の円滑化・省力化の観点から、デジタル化の更なる推進を積極的に図っていくための取組みを以下の通り定める。

1. FAX を利用したやりとりの見直し及び押印廃止の促進

上記のチェックリストにおいて、「日常業務に F A X を使用しているか」の項目では、本市では大半の学校が「使用している」と回答している。FAX の利用は保護者や外部とのやりとりにおいて、履歴が残らず確認に時間がかかることや送受信ともに紙媒体となるためペーパーレス化の阻害となっている。

緊急連絡やネットワークの不具合など、FAX のほうが電子メール等よりも効率的な一部の場合を除き、FAX の慣習的な利用を見直し、校務の効率化を図る。

また、統合型校務支援システムの活用で公簿や公文書の電子化を推進することで、校務における押印の廃止を促進していく。

2. クラウドサービス活用による業務の効率化

本市では教育ネットワークを、児童生徒・教職員が教育活動で利用する「学習系」と、児童生徒の個人情報を取り扱う「校務系」の 2 つに分離した構成となっている。ファイルサーバを用いて資料等の共有化を行っているが、これは同じネットワーク間だけであり、校務系から学習系に資料を移動する場合などは、別の作業が必要となり効率化の妨げとなっている。

個人情報など機微な情報の扱いを十分考慮した上で、クラウドサービスを活用し、ネットワーク間の資料のやりとりやデータへのアクセスの利便性を高め、業務の負担軽減・効率化を推進していく。

また教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考えに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえで、学習系・校務系ネットワークの統合について調査検討を進める。

3. 教職員の教育D X推進への意識の向上

校務のデジタル化・ペーパーレス化は、業務の効率化に大きく効果が見込めるが、教職員の I C T に対する理解や教育D X への意識の違いから、教職員及び学校間で進捗に差ができています。

上記のチェックリストにおいて、大半の学校が保護者連絡アプリを活用しているが、学校から保護者への連絡や資料配布にとどまり、保護者からの相談や日程調整、資料の提出などは一部だけとなっている。また職員会議等の資料を共有化し、ペーパーレス化している学校が大半だが一部にはまだ紙媒体で配布する場合もある。

I C T 技能の理解と意識には教職員・学校間で差があり、授業や校務への活用のイメージが見えず、活用が進んでいないケースもあるため、学校との認識の共有や教職員に向けての研修などを通じて、校務の効率化・業務改善の意識を高めるとともに I C T 支援員等により技能面のサポートを行う。

以上の取組みにより、校務のデジタル化・効率化を図ることで、教職員の業務負担の軽減につながり、児童生徒と向き合う時間を確保し、働き方改革の推進を図っていく。